

長期入院する高校生への学習支援
～特別支援学校のセンター的機能を生かした支援の在り方～

埼玉県立けやき特別支援学校 涌井剛

入院中の高校生の学習支援の現状

- ・けがや病気で長期入院（年間30日以上）した高校生
（2015,文部科学省） n=1127人

学習指導を実施していない	771人(68%)
自校の教員が病院等に訪問	132人
他校の教員が病院等に出向	9人
その他の方法	215人

病気療養児の教育の充実について

(2013、文科省通知)

小児がん拠点病院の指定に伴う対応

- ・高等学校段階の病気療養児への指導の充実



現状は、高校生への教育・支援は十分ではない。

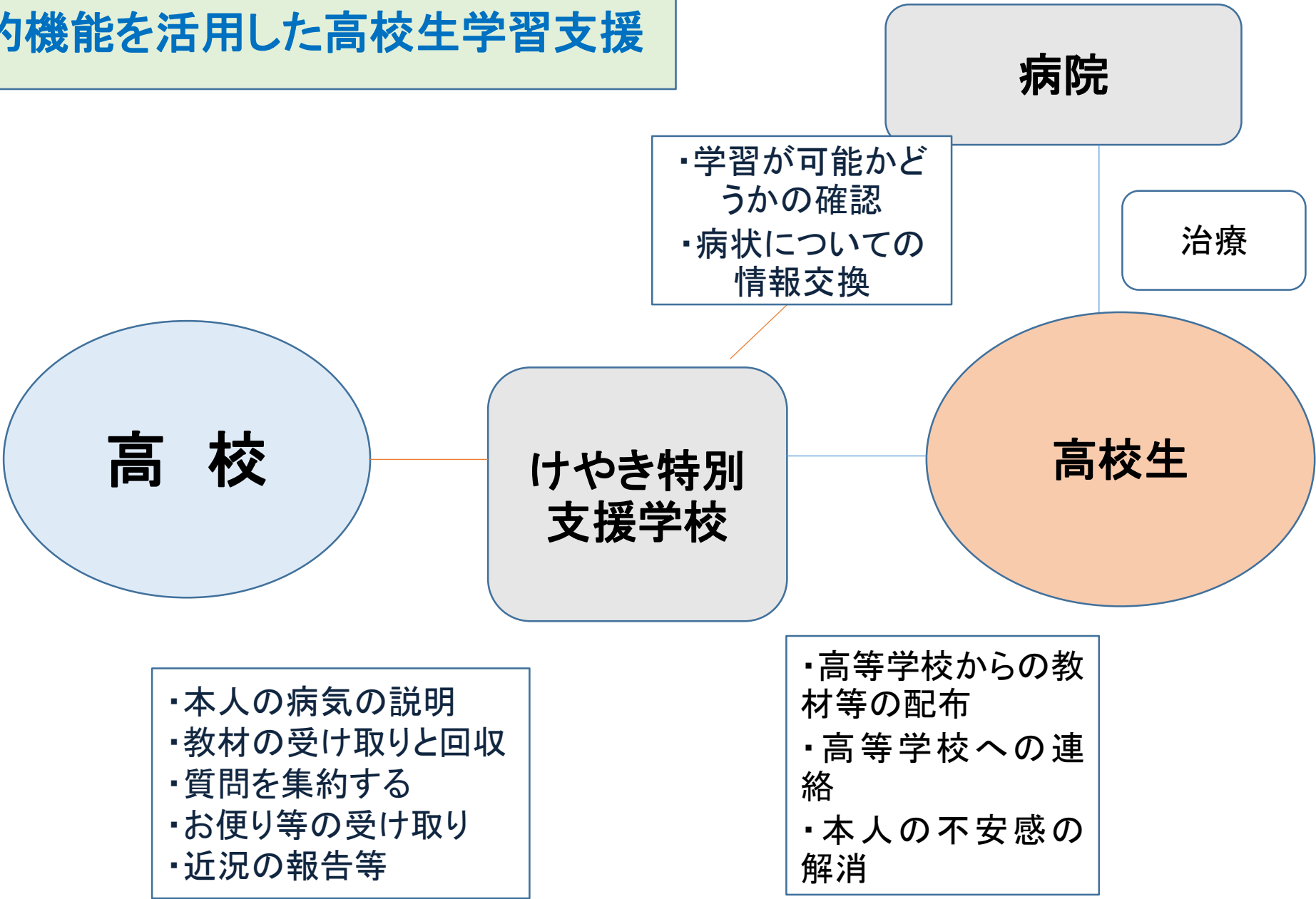
長期入院中の高校生への支援制度がある自治体(H28・8・20現在)

自治体名	支援方法
大阪府	非常勤講師の派遣や遠隔授業。30日以上入院の生徒。
神奈川県	非常勤講師や在籍校の教員を派遣。20日以上入院の生徒。
愛知県	非常勤講師の派遣。2ヶ月以上の入院の生徒。
札幌市	院内学級。北海道医療センターに入院中の生徒。
沖縄県	院内学級。長期入院中の生徒。
東京都	院内学級。2週間以上入院の生徒。
福島県	福島県立医科大学付属病院に入院する生徒。一時的に通信制高校へ転校。

- ・制度がある自治体は少ない。
- ・制度はあるが、実績が少ない自治体も複数ある。

埼玉県立けやき特別支援学校の取り組み

センター的機能を活用した高校生学習支援



病院

治療

高校

けやき特別
支援学校

高校生

- ・学習が可能かどうかの確認
- ・病状についての情報交換

- ・本人の病気の説明
- ・教材の受け取りと回収
- ・質問を集約する
- ・お便り等の受け取り
- ・近況の報告等

- ・高等学校からの教材等の配布
- ・高等学校への連絡
- ・本人の不安感の解消

支援内容

- 在籍高校が用意する課題を使用して、自学自習によって学習を進める。
- 単位認定は在籍高校で行う。
- 本校教員はベッドサイド等で自習の監督を行い、可能な範囲で質問に答える。

けやき特別支援学校の高校生支援における利用実績

	県内公立	県内私立	県外公立	県外私立	計
H27年度 (3月～4月)	4名	3名	0名	2名	9名
H28年度 (4月～3月)	4名	4名	1名	3名	12名
計	8名	7名	1名	5名	21名

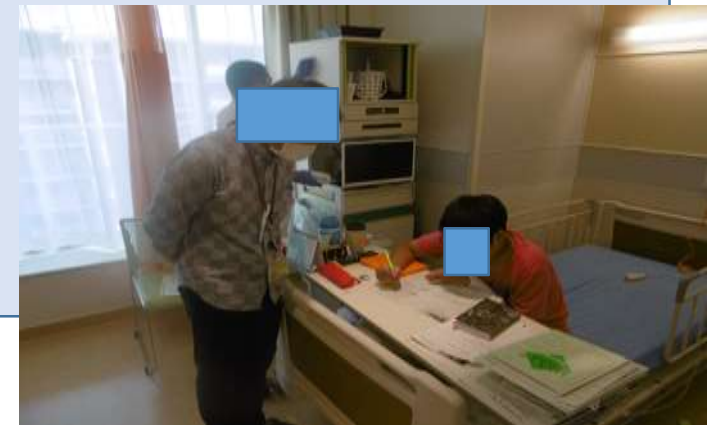
平成27年度の高校生学習支援の効果と課題について

担当教員が記載した指導記録や退院時のアンケートで聞き取った高校生の言葉を分類しその支援の効果と課題を明らかにした。

高校生学習支援の効果

心理的な安定が得られた

- 「(支援学校の)先生たちと話していると、落ち込まなくてすむから良かった。」
- 「休学するかどうか悩んでいた時、いろいろ相談にのってくれてありがとうございます。」
- 「(退院の延期が決まったときに)何もかもいや、勉強やりたくない。」
- 「(先生に八つ当たりしてすみませんでした。)」
- 「将棋やオセロ楽しかったです。」



長期入院によって生じる学習空白の軽減

- 「勉強も少しずつできたので、(治療も)もう少しのガマンなので頑張りますよ。戻った時ついていけるように頑張ります。」
- 「何をやっていいかわからなかったときに教材やプリントがあるとやりやすいです。」
- 「将来は看護系の大学を目指します。そのためにはもっともっと勉強します。」
- 「(無菌室入院中)俺やりますよ。でないと受験できないじゃないですか。」

在籍高校への所属感の維持

- 「学校のプリントが届くとやる気がでる。」
- 「(在籍高校の)先生が来てくれるんですよ。」
- 「(寄せ書きをもらい)みんな応援してくれているみたいで嬉しいです。」
- 「(在籍高校の)中間テストをやってみて少しはできたよ。」



規則正しい生活を送れた

- 「いつもゲームばかりしていたので規則正しい生活が送れました。」
- 「毎日(規則正しく)学習することができました。」
- 「一日のリズムが作りやすかった。」



高校生学習支援の課題

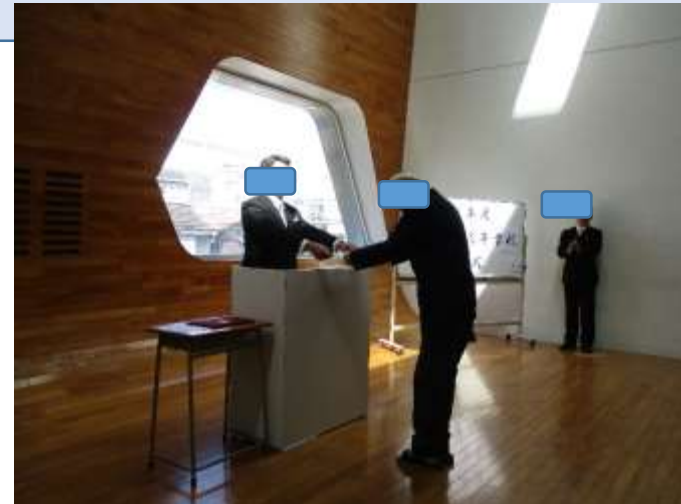
自学自習には限界がある

- 「数学とか物理は(授業を受けないと)わからない、わからないとやる気がなくなる。」
- 「プリントだけを持ってこられても、できません。」
- 「答えを見てもわからないです。」



進級や卒業に結びつかない

- 「これ(高校生学習支援)をやっても進級には結びつかないんですね。」
- 「入院しているから学校に出席できないんですよ。出席(しないと進級できないと言われても・・・)」
- 「(在籍高校の先生から)勉強は治ってからやればいいよと言われて辛かったし悔しかった。」

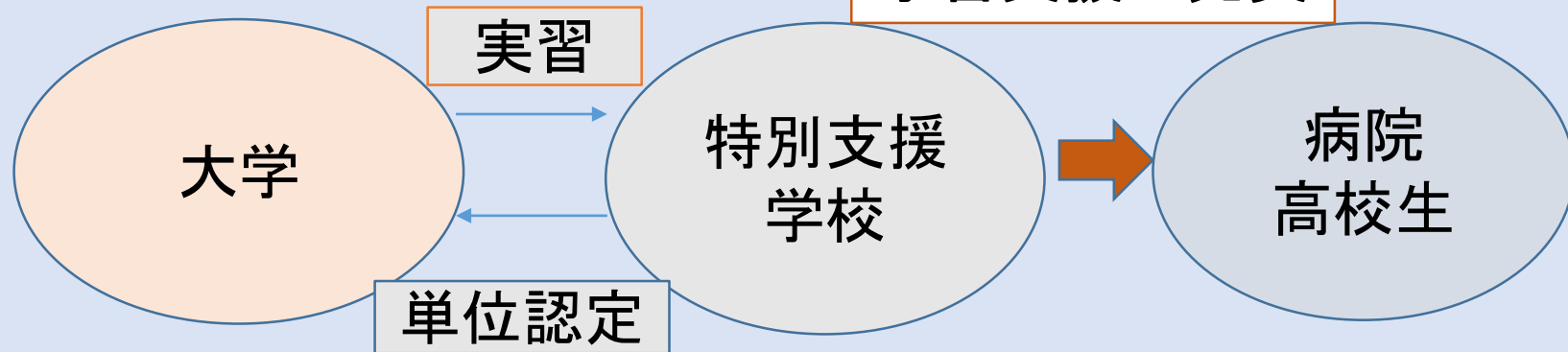


平成28年度における課題解決への取り組み

埼玉大学との連携



学習支援の充実



埼玉大学との連携の効果



高校生の感想

- (1) 学習面で一緒に考えてくれる存在
- (2) 話しやすい存在

大学生の感想

- (1) 楽しく活動できました。
- (2) 入院中であっても学習が必要であることが理解できました。

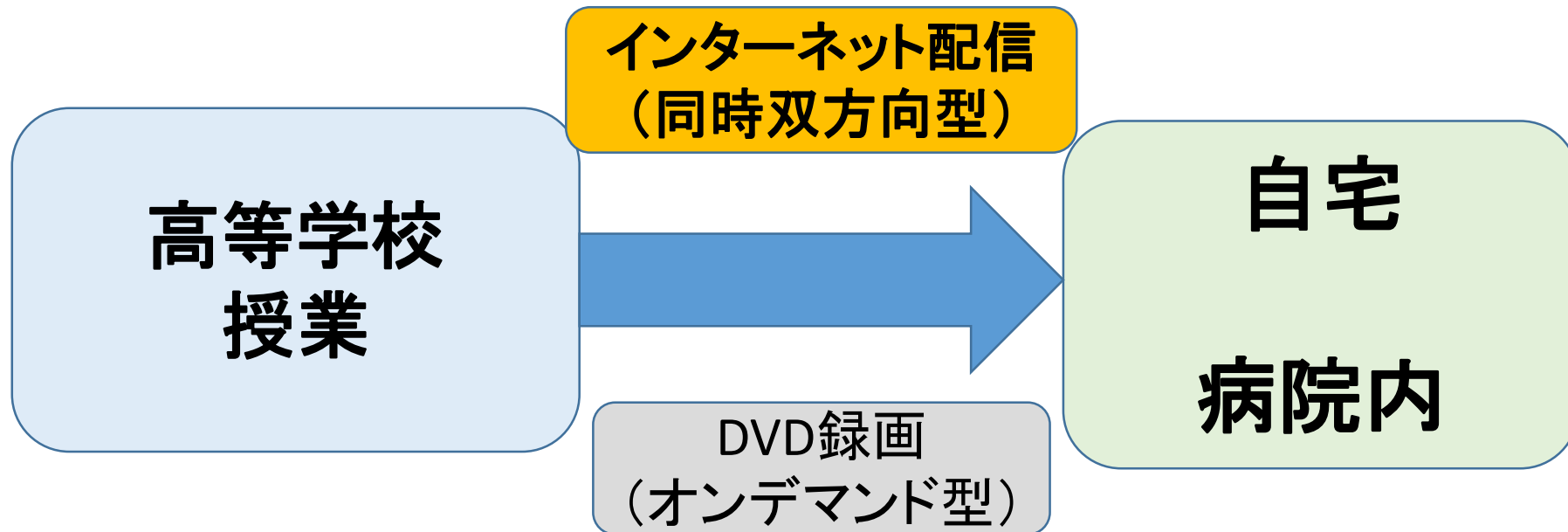
自学自習には限界があるという課題は改善

遠隔授業について

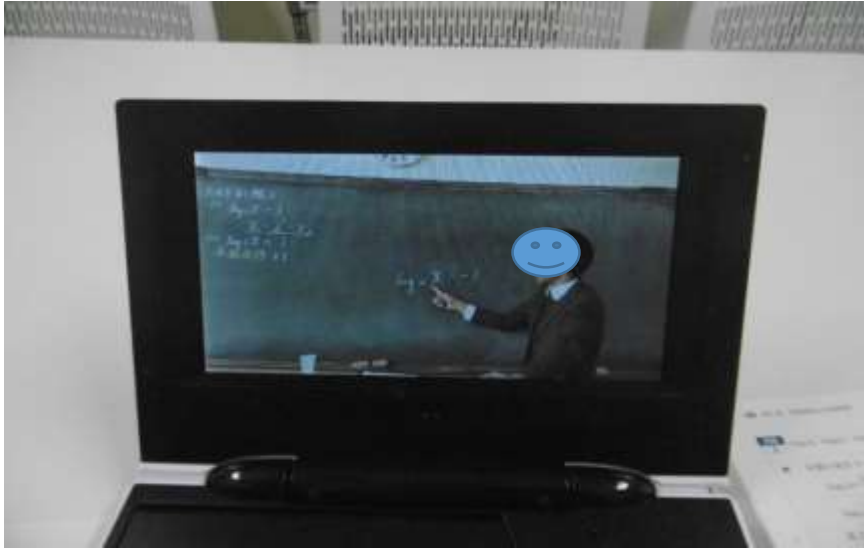
根拠となる法律

(学校教育法施行規則88条の2)

高等学校は、文部科学大臣が定めるところにより、授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。



遠隔授業(オンデマンド型)的な学習



(利用した高校生の感想)

- 「病院に入院中であっても学校で授業を受けている感覚を味わうことができた。」
- 「治療の合間に視聴できるのですごく助かります。」
- 「全然わからない問題を一人で解くのは厳しかったが、これをある程度わかった上で学習を進めることができた。」

遠隔授業(オンデマンド型)的な学習で明らかになったこと

- 遠隔授業(オンデマンド型)が、自学自習の難しさは軽減できる。
- 検査や治療があるため同時双方向型よりもオンデマンド型の方が適している。
- 高等学校でオンデマンド型による遠隔教育を行い単位認定をするには、文部科学省への届出が必要である。
- 録画する機材や送信側(高等学校)の負担が大きい。



結語

- 高等部や非常勤教員等の派遣制度がない病弱の特別支援学校においては、センター的機能を生かした高校生学習支援は効果があり、今後の長期入院する高校生への支援の方策の一つとなり得る。
- 長期入院という状況の中で在籍高校に出席することは難しい。そうした状況を打開するためには遠隔教育は不可欠であるが課題も多い。